

第2章 中学校における事例

1 個別の指導計画を作成するに当たって

個別の指導計画は、生徒一人一人の障害の状況等に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるもので、教育課程を具体化し、一人一人の指導目標・内容・方法を明確にして、きめ細かに指導するために作成されるものです。個別の指導計画は保護者との共通理解や連携・協力を大切にしながら、教育課程の具体化として、学校が責任をもって作成します。

(1) 個別の指導計画作成の手順

特別支援学級に在籍する生徒を対象に作成します。

作成は学級担任が作成します。その際、交流学級の担任や特別支援教育コーディネーターの協力や助言を受けながら行います。

ア 保護者や小学校からの情報（成育歴・相談歴・願い等）を収集する。

イ 行動観察等を行い、児童生徒の実態（生活面、学習面）を把握する。

ウ 必要に応じて、心理アセスメントを実施し、結果の分析を行って、特性を理解し、支援の方針を決定する。

(2) 目標の設定について

ア 長期目標の設定について

十分に実態把握を行い、おおよそ1年間を想定し、本人・保護者のニーズに応える内容であるか、将来の自立と社会参加を見据えた内容であるか、評価できる具体的な内容であるか等を考え設定します。

また、将来的な自立を想定して、生徒の発達段階を捉え、生活面、学習面として整理し、家庭でできること、学校でできることを明確にすることで具体的に設定できます。

イ 短期目標の設定について

半期もしくは1学期を想定し、できるだけ具体的に、生徒の興味関心をいかした、主体的な行動の面から、目標の設定を行っていくとよいでしょう。その際、客観的に評価できる内容で設定することが大切です。

ウ 手立て・支援について

いつ、だれが、どこで、どのように支援するかが分かるように記載する。

エ 評価について

- ・ 具体的な目標に対する達成度を記号で記載する。（達成度8割以上、達成度6割以上8割未満、達成度6割未満）
- ・ 評価するとともに、支援内容と関連させて具体的に評価する。

オ 次への課題について

短期目標の評価に基づき、長期目標の達成に向けて取り組むべき内容が明確に成るように記載する。

2 個別の指導計画の事例

(1) プロフィール

中学校	自閉症・情緒障害特別支援学級	年	男
生育歴、就学前、前年度までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食道閉鎖のため手術(生後1日 - 病院)。 ・ 3回の心臓手術(1か月・1歳・4歳 - 病院)。 ・ 療育センターで知的障害のある自閉症の診断を受ける(3歳)。 ・ 療育手帳を受け、3ヶ月間、週1回 療育センターの教室に通う(3歳)。 ・ 療育園に毎日通園する(4歳～6歳)。 ・ 小学校情緒障害特別支援学級に入級(7歳～12歳)。 		
生活適応状況	<p><できること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつは、きまったパターンではできる。 ・ 登校は妹、下校は特支学級のAさんと一緒に通学している。本校への自力登校は可能。 ・ 基本的な生活習慣は、ほぼ身につけている。生活リズムも良い。昼食は弁当。 ・ 一つ一つ活動内容を先生に確認するか、他のメンバーの動きを見て動くことができる。 ・ 指示は通りやすくなり、応答が少しずつできるようになってきている。 ・ 見通しが持てる活動においては、指示がなくても動くことができる。 ・ 習慣化された生活の中では、コミュニケーションをとることができる。 ・ トレーニングにも前向きに取り組み、この1年で体力的にはかなり向上した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な発信はほとんどなく、基本的に対話は受身である。 ・ 要求することが苦手で、言えずにがまんしてしまうことが多い。 ・ トイレに行きたいということが言えない。 ・ 活動は丁寧であるが、全般的に時間がかかる。 ・ 言葉掛けをしないと、声が小さくなりがちである。 		
学習適応状況	<p><できること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語、数学では、1単位時間(50分)集中して学習することができる。本生徒自身が自信の持てる内容であると自覚できる場合は、できるとニコッとするなど自信が表情にも表れ、意欲的に取り組むことができる。 ・ 宿題は、100%やってくる。量も増えたが対応している。文字が丁寧で読みやすい。 ・ 描画が得意である。いろいろなキャラクターを創作し、表現することを好んでいる。 ・ 作業的な学習では、指示を待つ様子が見られるが、コツコツと取り組むことができる。 ・ 漢字は得意で、小学校3年生で学習する漢字までの読み書きができる。意味理解は不十分である。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的で簡単な文章を書くことができるようになったが、文章がパターン化しているのでバリエーションを増やしていくことが必要である。 ・ 5W1Hの質問にあわせて、答えることが難しい。 ・ 数唱が3桁程度なので、具体物を操作しながら、数学的な内容の理解につなぐ必要がある。 ・ チャイムを聞いて時間を意識しているが、デジタル時計を見て時間を意識することが難しい。 		
標準検査等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全訂版田研・田中ビネー知能検査(平成 年 月 日実施) CA: 歳 か月、MA: 歳 か月、IQ: 		

(2) 個別の指導計画

ア 長期目標

本人の 願い	生活	自分の考え、要求を声に出して伝えることができる。
	学習	お金を使うことができる。日常生活に必要な内容の文章を理解することができる。
	進路	特別支援学校高等部
保護者の 願い	1	自分の考え、要求を声に出して必要な人に伝えることができる。
	2	時間を意識して活動することができる。
	3	行事等に少しでも楽しんで参加することができる。
区分	長期目標	手立て
生活 課題	・ スケジュールを見て、自立的に動く。	・ 時間割、スケジュール提示
	・ 基本的な生活習慣のスキルアップ(食事、着替え、挨拶)	・ 具体目標の提示
	・ 自立下校・移動	・ 家庭との協力
学習 課題	・ 自立機能の向上(買い物、カレンダー、時計)	・ 実践的な活動の実施
	・ 言葉によるコミュニケーション力の向上	・ キーワードの明確化
	・ 基礎体力の向上	・ プログラムの設定

イ 短期目標、手立て及び評価

区分	短期目標	手立て	評価
生 活	学校で	<ul style="list-style-type: none"> 自分でスケジュールを確認して、教室移動や、更衣(体育)を行うことができる。 「できました」「教えてください」「はい(返事)」を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人と相談しながら、1日のスケジュールを作る。 目に付きやすいところに必要な言葉を貼り、適切に使えたとき、その都度、教師が言葉で評価する。
	家庭で	<ul style="list-style-type: none"> 一人でできることを増やす。(食事後の片づけ・起床・うがい手洗い) リズム正しく生活することができる。(就寝時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の手順を本人が確認することができる場所に貼り、できたときその都度、母親が評価する。 目標就寝時間を毎日書き、自分自身で評価できるようにする。
教 科	国語	・ 小学校3年生で学習する漢字を書いたり、読んだりすることができる。	・ 本人の日常を言語化した簡単な漢字仮名混じり文をプリントにして毎日の課題とする。
		・ 自分の思いや考えを5行程度の文に書くことができる。	・ 本人の思いを聞き出し、簡単な文に表し、視写することから始める。
		・ 小学校2年生程度の文章を読み、大筋を理解することができる。	・ 高学年対象の読み物を2年生が理解できる表現に、リライトして準備し、毎日10分程度読む時間を設ける。
		・ 経験したことについて、5W1Hの質問に答えることができる。	・ 保護者とともに日記を書く習慣をつけ、日記を題材に質問をする。

教 科	数 学	<ul style="list-style-type: none"> 1桁のたし算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント学習を中心としながら、半具体物を使って確認をするようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> お金（1円～500円）を数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 品物を写真で紹介しながら、買い物をも想定して学習ができるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> 3桁の数字を読み、書き表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント学習で定着を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> 時計を見て時間が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル時計を活用する。
	生 活	<ul style="list-style-type: none"> 時間割を見て主体的に活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールに時間を書き込めるようにし、デジタル時計を確認して行動するようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> スーパーに行き、目的のものを買うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と、保護者と実践して、その後、本人だけで実践する。
		<ul style="list-style-type: none"> 手順書を見て、カレーを作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師がカレーを作って見せながら、本人とともに手順書を作成する。
	体 育	<ul style="list-style-type: none"> 筋トレ20回を2セットすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が見て理解できるトレーニングプログラムを作成するとともに、毎日トレーニングする時間を設ける。
	自 立 活 動	コ ミュ ニ ケー ション	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な質問に答える。
<ul style="list-style-type: none"> トイレに行きます(たい)と伝えることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 言えたときに評価し、成功した回数を見て分かるように提示する。
<ul style="list-style-type: none"> 「できました」「教えてください」が言える。 			<ul style="list-style-type: none"> 言い方と言うタイミングをその都度知らせ、自発的にできたとき、評価する。
対 人 関 係		<ul style="list-style-type: none"> 話している人を見ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話している人を見るタイミングや見る態度を実践的に例示する。
		<ul style="list-style-type: none"> 適当な声量で話をするができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさを数字で示し、その都度評価しながら、場面に応じた適切な音量に導く。
		<ul style="list-style-type: none"> 相手に聞こえる声であいさつをすることができる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 指示や言葉掛けに対し、「はい」と返事をするができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言い方と言うタイミングをその都度知らせ、自発的にできたとき、評価する。
余 暇 活 動	<ul style="list-style-type: none"> 学級の友達と一緒に楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに月1回程度の校外活動を、生徒とともに計画し、楽しみに待つことと、活動を楽しむ経験ができるようにする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 学級の友達とルールのある遊びができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の個人の实態や構成員に配慮してトランプ・かるた・オセロ等ルールのある遊びを経験できるようにする。 	

ウ 評価（記述）

生活	<ul style="list-style-type: none">・ 教師と視線が合うと言う、動くというのは、定着してきており、課題ができれば「できました」と言うことが習慣化してきている。・ 確認する力は向上しているが、反対に教師に確認しないと行動に移せない様子が見られる。・ 朝、みんなの机をふく、昼食 弁当箱洗い 歯磨きは、一連の作業として定着し、指示がなくても動けるようになった。・ 「トイレに行きます」と言えるようになったが、ギリギリのタイミングになってしまうことがある。・ 「はい」という返事が多くの場面で見られるようになった。・ 合図を送ると、声量を意識して話すことが多くなったが、合図がない場合は、相手に届かない程度の声量になることが多い。・ 学級で行う遊びには楽しそうな表情で参加している。
学習	<ul style="list-style-type: none">・ 漢字学習には抵抗感がなく取り組んでいる。小学校3年生程度の漢字の読み書きが概ねできるようになった。・ 日常的な文については、5行程度の文を書くことができるようになった。・ 5W1Hの質問には慣れてきた。「いくつ」と「いくら」の違いの理解が十分でない。・ たし算・ひき算〔1桁〕は、かなり定着した。・ 3桁の数字を読み書きすることは、まだ定着していない。・ 時計は、時間を意識する 時計を読むことに取り組んでいる。・ 手順書を見て活動することに慣れてきた。・ 近所のスーパーでの三品程度の買い物は、予め品物が決まっていると、本人だけでできるようになった。・ トレーニングは順調にこなしています。体力は確実に向上している。

エ 次への課題

スケジュール（手順書）を見て、自立的に動くこと。

時間を意識して活動ができること。

「次は何をしますか」「～をください」「いや」が場面に応じて言えること。

個別の指導計画（様式）

プロフィール

中学校		特別支援学級	年		
生育歴、就学前、前年度までの状況					
生活 適 応 状 況	<できること>				
	<課題>				
学 習 適 応 状 況	<できること>				
	<課題>				
標準検査等の結果					

長期目標

本人の願い	生活	
	学習	
	進路	
保護者の願い	1	
	2	
	3	
区分	長期目標	
生活課題		
学習課題		

短期目標、手立て及び評価

区分		短期目標	手立て	評価
生活	学校で			
	家庭で			
教科	国語			

教科	数 学			
	生 活			
体 育				
自立活動	コミュ ニケー ション			
	対人 関係			
余暇 活動				

評価（記述）

生 活	
学 習	

次への課題

--